

「この次は巴里で」と差出される暖い手を握つて京都驛頭に別離を告げたのは、早くも八年近い昔となつた。知らず再び巴里の地を踏んで冷い墓前に額づく日の有りや無しや。(東洋史研究第一卷第三號、昭和十一年二月十日)

## 我が國の東方學とペリオ教授

前の世界大戦中及び戦後暫くの間に、歐洲諸國に於て多數の學者の物故したことは御承知のとほりであります。それらの中には直接戦争に参加して陣歿した人もあると共に、我が國の現状に似通うた榮養失調の狀態で亡くなつた人も少くないのであつて、しみじみ戦争の慘禍を味はつた次第であります。この度の戦前戦後に於てもまた諸國の多くの學者が同じやうな事情の下に亡くなつたやうであります。就中フランスの東方學界に於ては、グラネー、マスペロ、アッカソ等有名の人々が相ついで鬼籍に入つた中に、我が國に多くの知己友人をもつてゐた偉大なる東方學者ポール・ペリオ (Paul Pelliot) 教授をも數へねばならぬことは誠に痛恨の至りであります。ペリオ教授の亡くなつた噂は昨年來傳聞してゐましたが、近頃になつて漸くその確報に接した次第であります。彼が現代フランスの生み出した東方學の偉材であり、獨りフランスとかヨーロッパとか言はず、世界の東方學界の最高峰に立つてゐたことは、學界の等しく認めてゐたところであります。尤も一概に東方學と言つても廣い範圍に互る名稱で、その中に多くの分野を區別しなければならぬ譯であります。氏の分野は極東・中央亞細亞を含めての言